

2012 年 5 月 25 日

2011年度業績と 2012年度の取組み

～12Vision最終年度の施策と業績見通し～

社長 松本 正義

1. 2011年度 業績

1. 業績サマリー
2. 震災・洪水、為替と2011年度業績
3. 震災からの生産回復と
四半期利益の推移(為替調整後)
4. 設備投資
5. 研究開発費
6. 海外売上高
7. 海外売上高比率
8. 営業利益増減要因
9. 連結PL
10. 連結BS

2. 2012年度の取り組みと業績予想

1. 対策サマリー
2. 設備投資
3. 研究開発費
4. 営業利益予想
5. 業績予想

6. 12Visionの売上高・営業利益目標
7. セグメント別売上高・営業利益
8. ドルベース売上高の推移

3. 各セグメントの取り組み

1. 自動車関連事業
2. 情報通信・システム関連事業
3. エレクトロニクス関連事業
4. 電線・機材・エネルギー関連事業
5. 産業素材関連事業

4. 配当について



1. 2011年度 業績

- ✓ 東日本大震災の影響により上期は減収・減益を余儀なくされたが、第3四半期以降は、前年同期比増収・増益に転換。
但し、震災ダメージを回復し、まさに反転攻勢に出んとする第3四半期中頃に、タイで洪水災害が発生。挽回の成果の確保が第4四半期にずれ込んだことから、営業利益は年初予想に届かず。

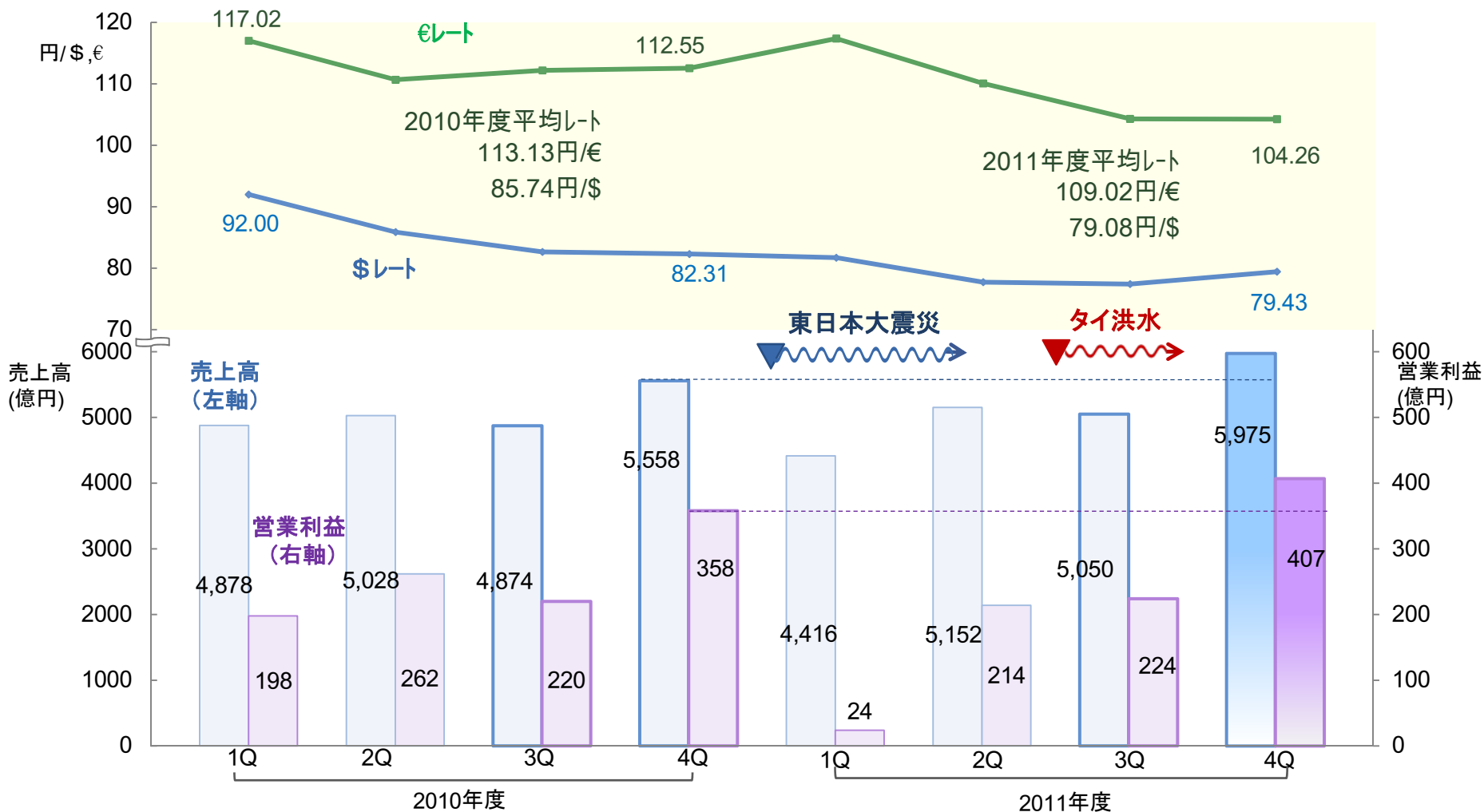
- ✓ ワイヤハーネス・超硬工具・FPCの下期のグローバル生産数量は過去最高を更新。
これら製品の売上拡大により、下期の売上高は、円高が進む中でも前年同期比 5.7%の増収、営業利益は同 9.2%の増益を確保。特に4/四期の営業利益は、為替の影響を加味すると実質過去最高の水準となった。
2011年度の海外売上高比率は45.6%と、前年比+1.8ポイント向上。

- ✓ 2011年度は、グローバルに1350億円の設備投資を実施。又、研究開発費は、今後の更なる成長に向けて、866億円を投入。

1-2. 震災・洪水、為替と2011年度業績

FY2011 Result & FY2012 Forecast

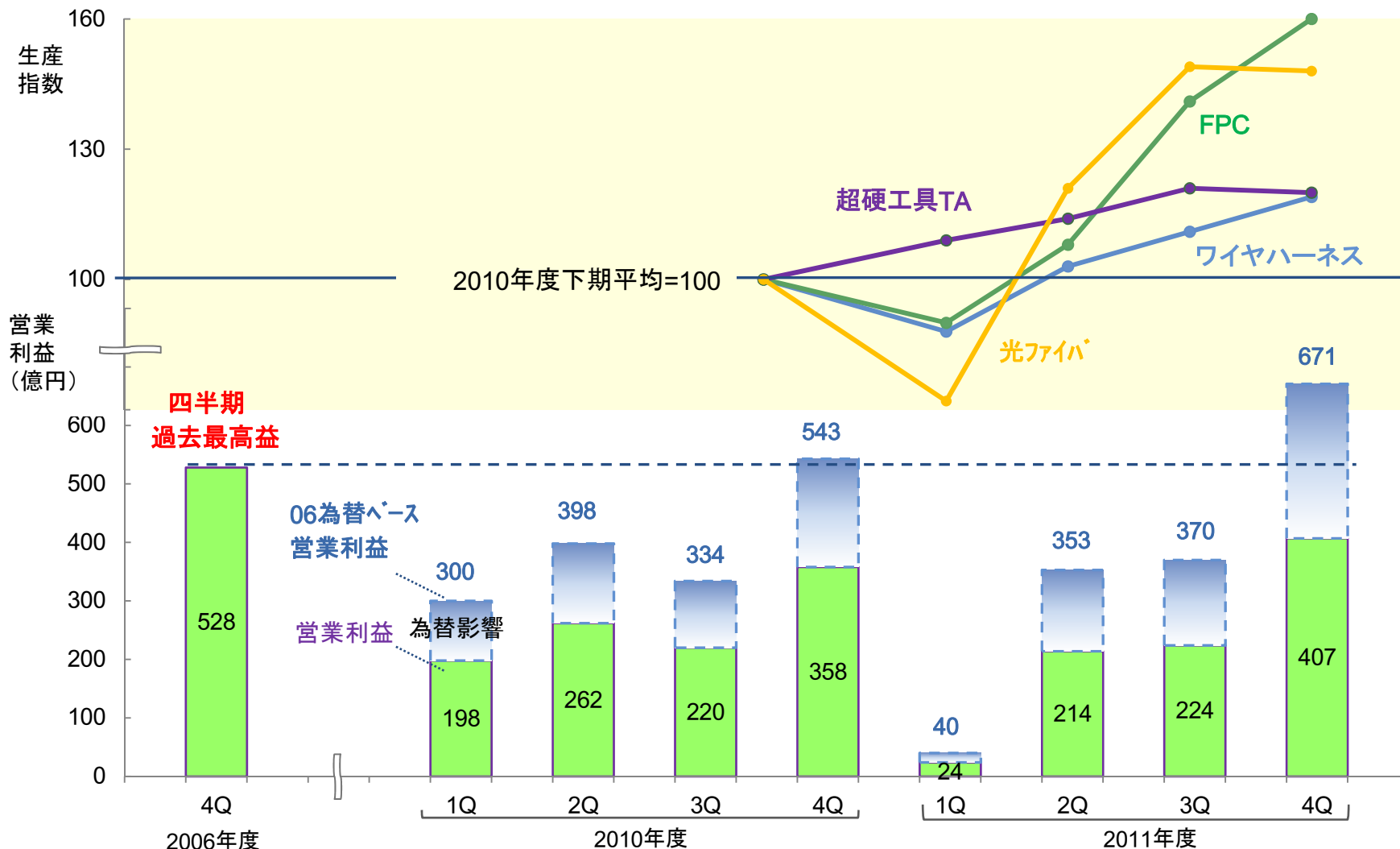
- ・厳しい円高環境下でも、3Q以降は前年同期比増収・増益に転換。
- ・3Qのタイ洪水被害により本格的な挽回は4Qへずれ込んだが、下期は、前年同期比6%の増収、同9%の増益を確保。



1-3. 震災からの生産回復と四半期利益の推移(為替調整後)

FY2011 Result & FY2012 Forecast

- ・下期は、ワイヤハーネス・超硬工具・FPCなどのグローバル生産量が record high。
- ・4Qの営業利益は、2006年の為替で換算すると過去最高の水準。





1-4. 2011年度の設備投資

FY2011 Result & FY2012 Forecast

- ・2011年度は、自動車関連の能力増強投資を中心に1350億円の設備投資を実施。
- ・海外設備投資比率は、2009年度:26%→2010:38%→2011:40%。2011年度の内訳は以下の通り。

欧州他: 92億円 (自動車86他)

自動車関連

- ・Renault, PSA, VWグループ, FIATグループ, 日系向けワイヤハーネスの生産能力を、モロッコ・チュニジア・東欧等で増強

米州: 67億円 (自動車48、産業素材15他)

自動車関連

- ・ワイヤハーネス及び部品の生産拠点(メキシコ、ブラジル、米国)増強
- ・防振ゴムの生産能力拡大

中国、アジア : 382億円 (自動車関連187、エレクトロニクス89, 産素86他)

自動車関連

- ・ワイヤハーネス及び部品の中国拠点(惠州、天津、上海、常熟)、タイ、ベトナム、フィリピン、インドネシア等の拠点を増強
- ・防振ゴムの拠点増強

エレクトロニクス関連

- ・FPC(中国深セン、タイ)生産能力増強

産業素材関連

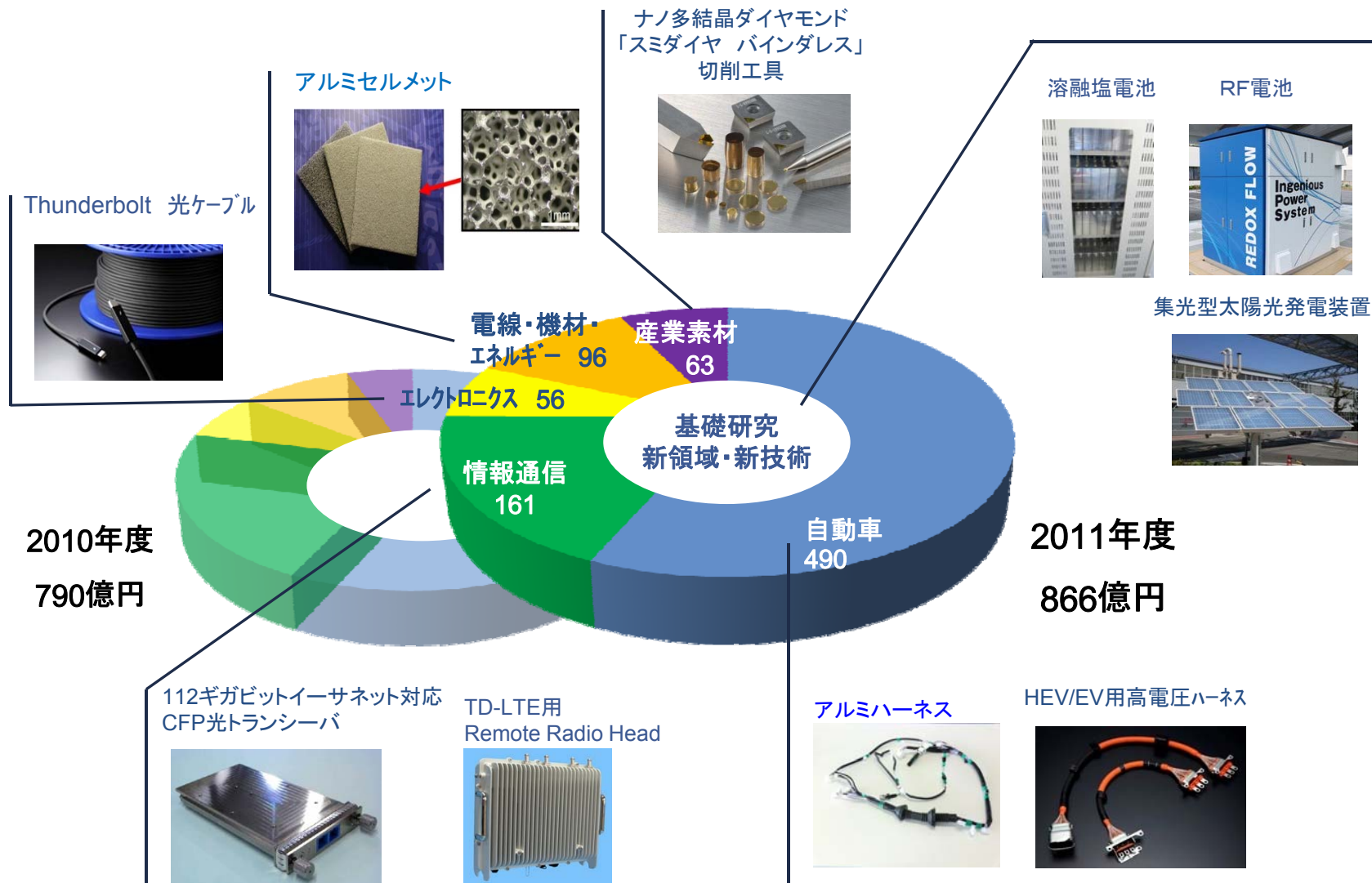
- ・超硬ドリル・ダイヤモンド超硬工具の中国(常州)製造拠点設置

日本においては、輸出競争力強化の為の投資(情報通信、産業素材)、マザー工場としての新製品開発投資(自動車)、次世代新製品の拡大に向けた投資(研究開発)や節電対応等、809億円を実施

1-5. 2011年度の研究開発費

FY2011 Result & FY2012 Forecast

・2011年度は、前年比9.6%増の866億円のR&Dを実施。

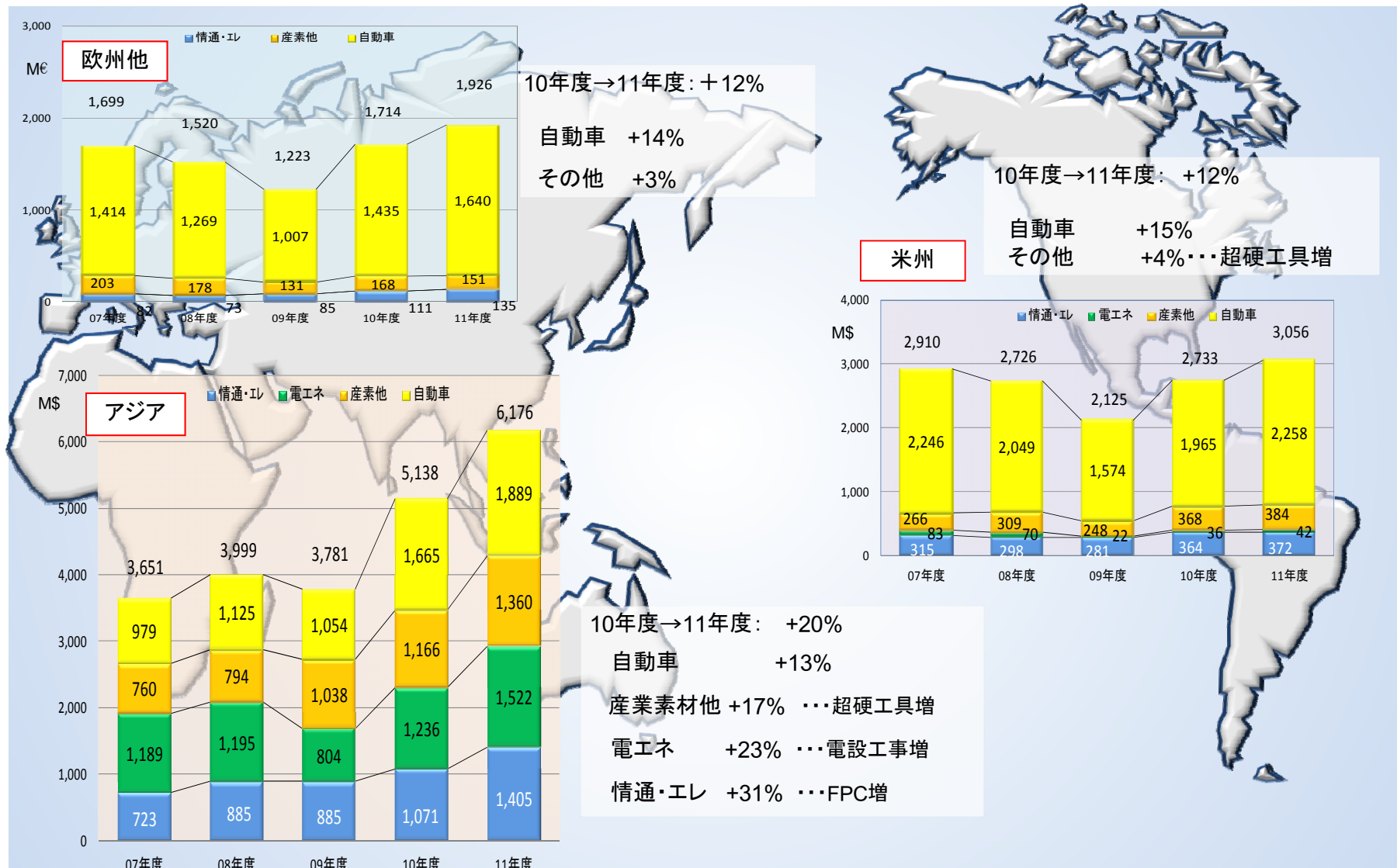




1-6. 海外売上高

FY2011 Result & FY2012 Forecast

・2011年度は、米州の自動車、アジアのエレクトロニクス・電機エネルギー、欧州の自動車が売上を拡大。

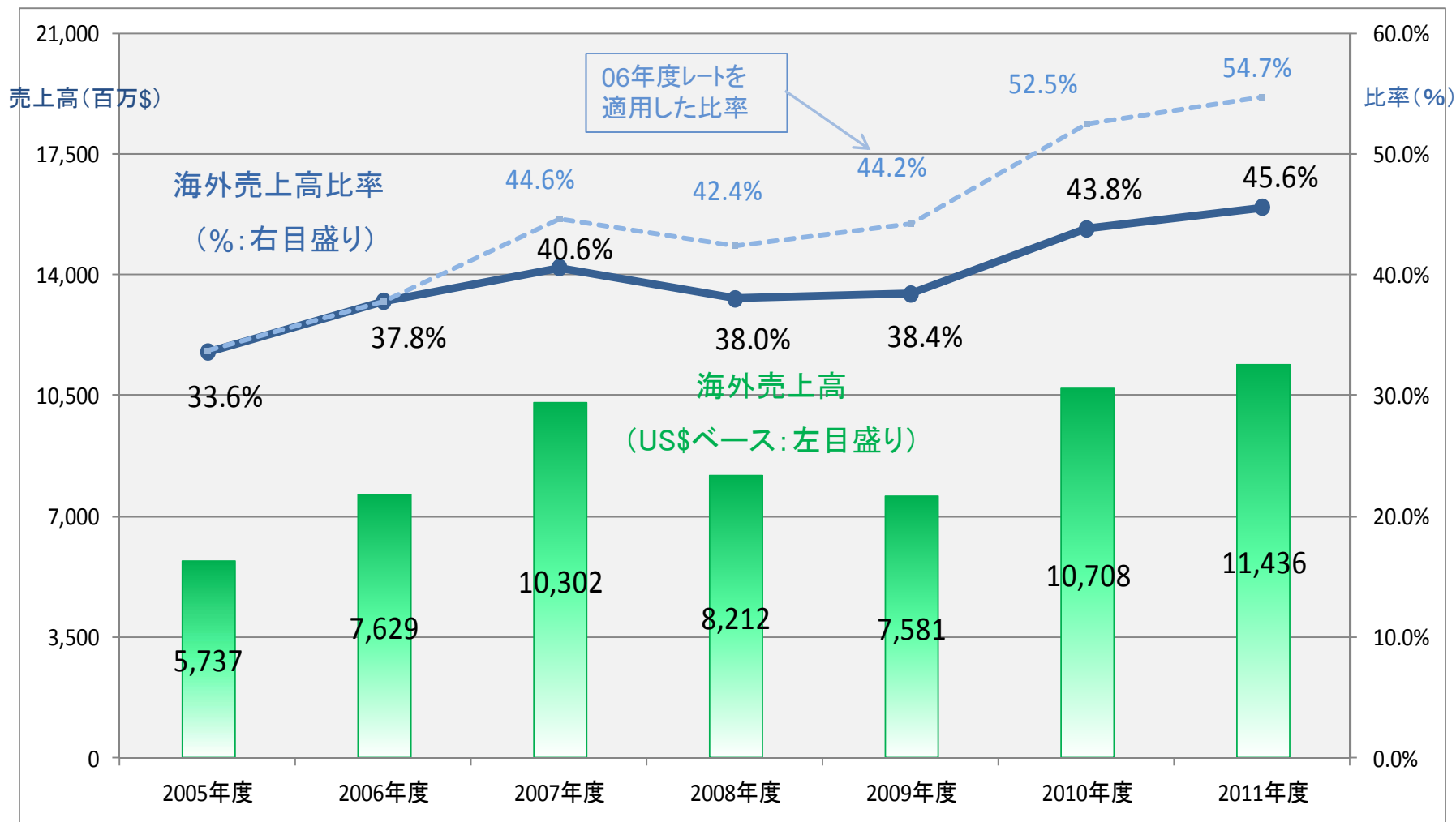




1-7. 海外売上高比率

FY2011 Result & FY2012 Forecast

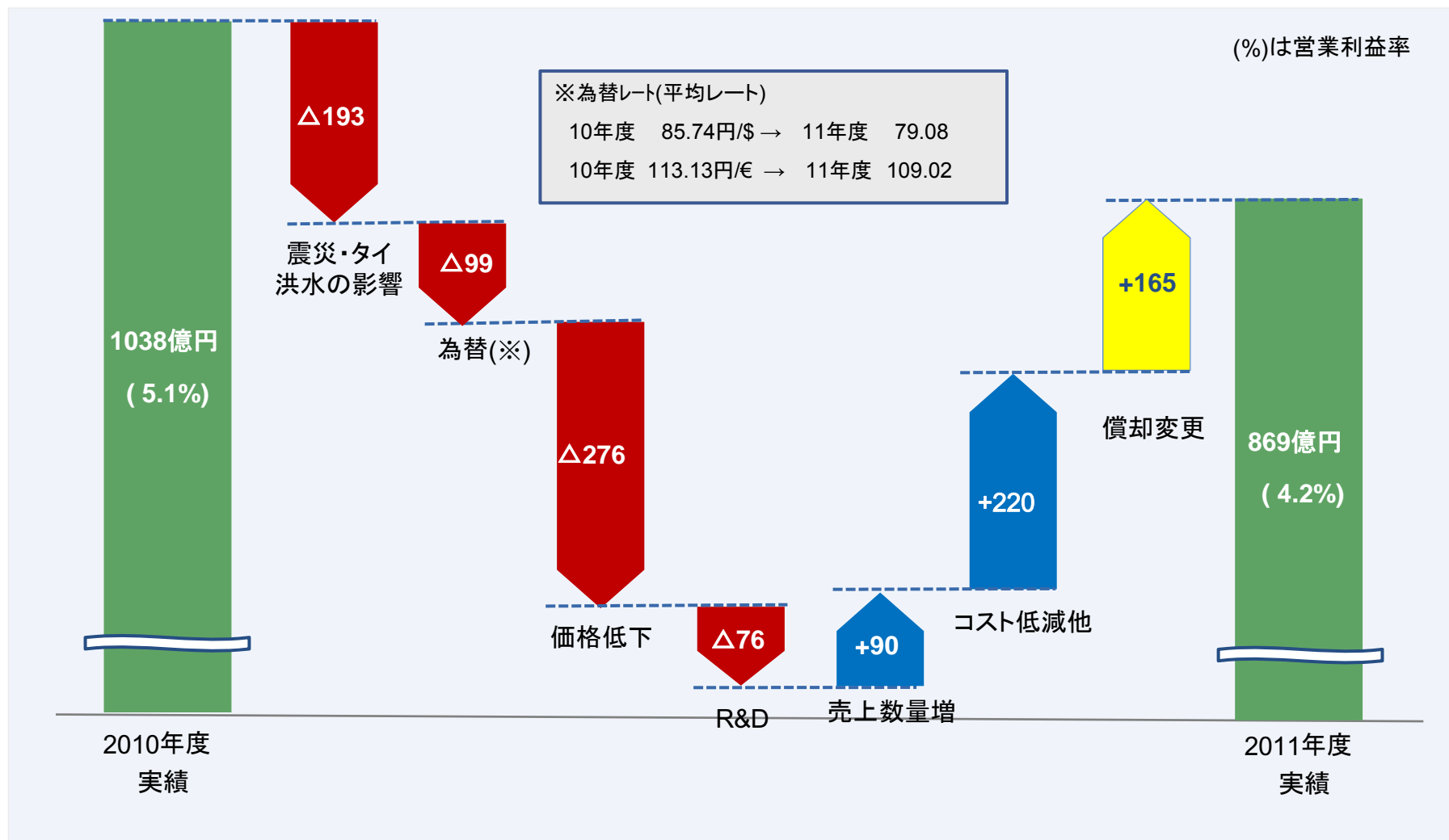
- ・リーマン前後の変動を除き、海外売上高は着実に拡大。2011年度もドルベースで6.8%の増収。
- ・円高によって海外売上高の円評価額が目減りする中でも、2011年度の同比率は45.6%に拡大。



1-8. 営業利益の増減益要因

FY2011 Result & FY2012 Forecast

・相次ぐ災害や円高の影響が約△300億円あり。4Qを中心に挽回を図ったが、前年比△169億円の減益となった。



1-9. 2011年度 連結PL

FY2011 Result & FY2012 Forecast

- ・下半期は前年同期比増収増益に転じたが、3Qのタイ洪水もあり、上期の減益を挽回するには至らず。
- ・下期(特に4Q)の収益力を維持・強化し、2012年度の業績向上に繋げる。

(億円)	2010年度		2011年度		増減		増減率	
	年間	下期	年間	下期	年間	下期	年間	下期
売上高	20,338	10,432	20,593	11,025	+255	+593	+1%	+6%
営業利益	1,038	578	869	631	△169	+53	△16%	+9%
持分法損益	239	97	205	115				
その他営業外	14	△6	△7	△35				
経常利益	1,291	669	1,067	711	△224	+42	△17%	+6%
災害損失	△88	△88	△73	△20				
その他特別損益	△65	△56	6	30				
税前当期純利益	1,138	525	1,000	721	△138	+196	△12%	+37%
税・少数株主利益等	△432	△233	△411	△323				
当期純利益	706	292	589	398	△117	+106	△17%	+36%

1-10. 2011年度 連結BS

FY2011 Result & FY2012 Forecast

- ・自己資本比率を健全にキープして総資産2兆円を回復。(かつて総資産が2.2兆円となった2007年度末の自己資本比率は44.1%)。
- ・D/Eレシオ0.37を確保しつつ、積極的なR&D、設備投資を実施。

(億円)	10年3月末 実績	11年3月末 実績	12年3月末 実績
流動資産	9,599	9,888	10,474
固定資産	9,800	9,675	10,247
流動負債	5,579	5,310	6,359
固定負債	3,175	3,327	2,973
(有利子負債)	3,556	3,419	3,641
株主資本	9,076	9,669	10,113
その他の包括利益累計額	△35	△178	△233
少数株主持分・新株予約権	1,604	1,435	1,509
総資産	19,399	19,563	20,721
自己資本比率	46.6%	48.5%	47.7%
D/Eレシオ	0.39	0.36	0.37



2. 2012年度の取り組みと業績予想



2-1. 2012年度の対策サマリー

FY2011 Result & FY2012 Forecast

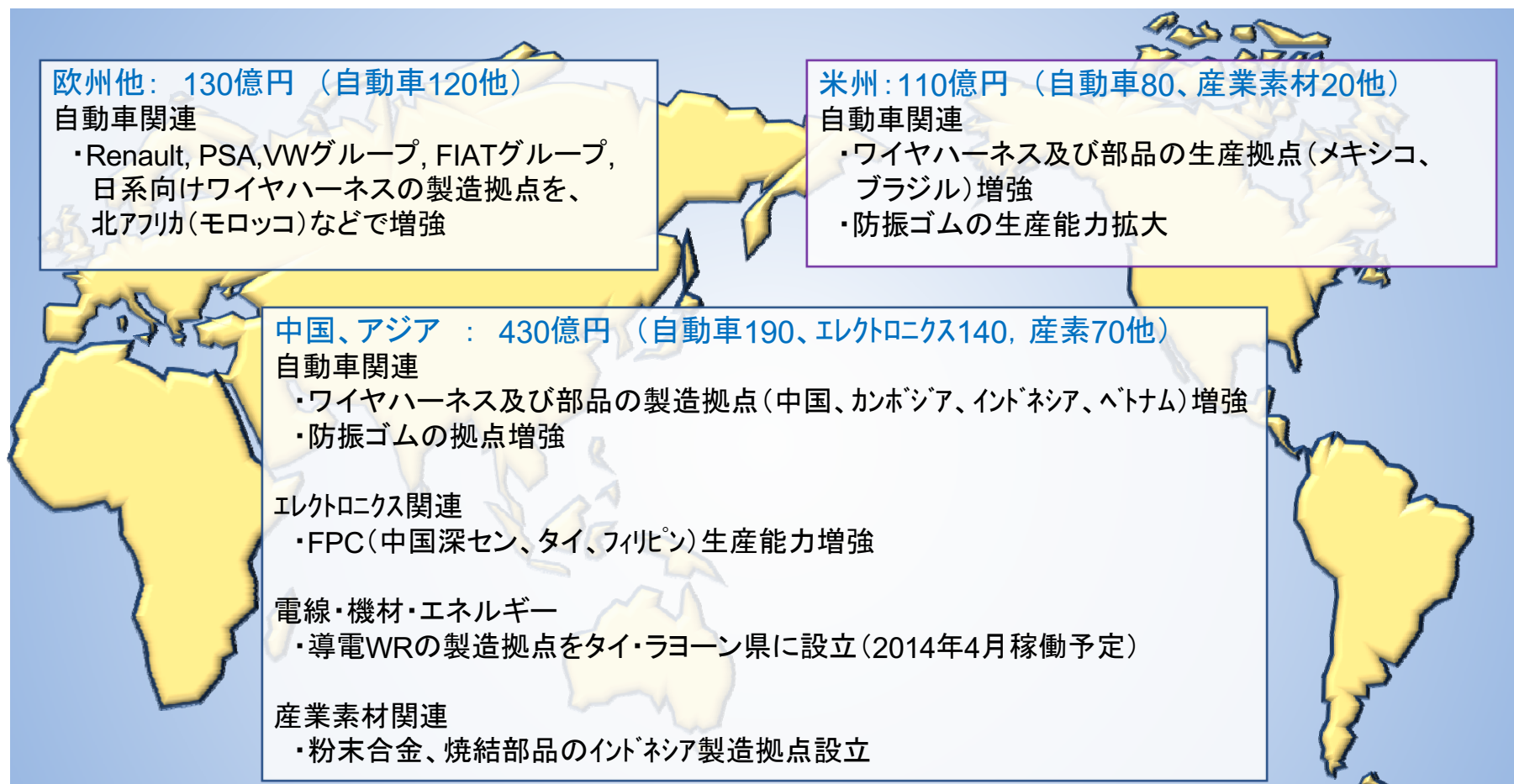
- ✓ 足元の環境は、欧州の政府債務不安、中東情勢のリスク、日本企業の六重苦問題など停滞感・不透明感が強いが、グローバルに成長する市場・製品の需要を的確に捕捉し、中期計画：12Vision最終年度の目標を目指す。
- ✓ 12Visionの目標を現在の為替に換算すると、営業利益の目標は1350億円。
2012年度の業績見通しは、自動車、電線・エネルギー及び産業素材は12V目標をクリアするが、情報通信は、円高をはじめとする環境や市場の変化、及び競争激化への対応が遅れたことから未だ利益を見込めず、エレクトロニクスは顧客構成・採算構成が大きく変化したことから、12V目標に大幅未達。
現時点で予想できる全体の営業利益は1100億円にとどまるが、情報通信の抜本的な構造改革など、目標に近づけるべく更なる対策を積み上げる。
- ✓ 2012年度目標の達成に向けて、更にもその先の成長の為に、当期も積極的な設備投資（出資も含めて1600億円）とR&D（930億円）を実施する。



2-2. 2012年度の設備投資

FY2011 Result & FY2012 Forecast

- ・2012年度は、出資等も含めて1600億円の設備投資を計画。
- ・海外設備投資比率は42%に拡大(←2011年度:40%)。内訳は以下の通り。



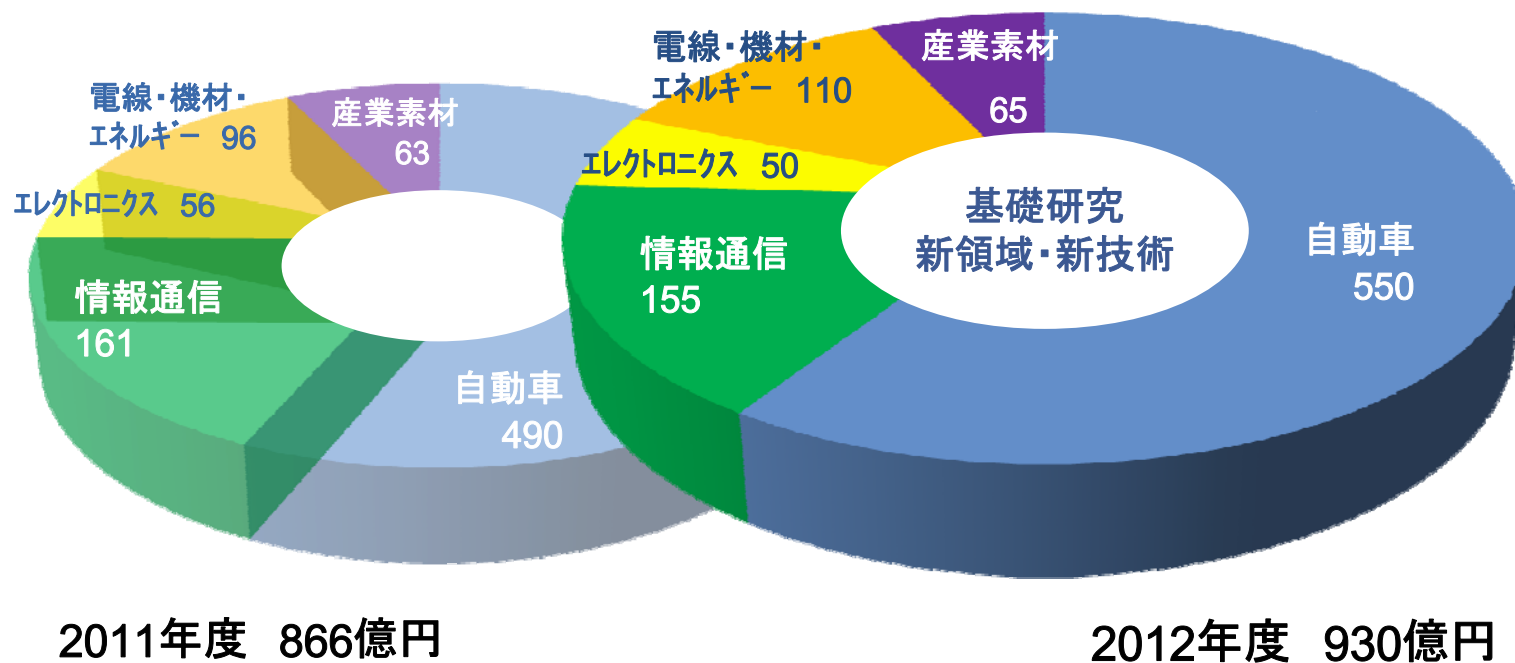
日本においては、主力製品の増産投資(産業素材)、マザー工場としての新製品開発及び生産合理化投資(自動車)、次世代新製品の拡大に向けた投資(研究開発)等、930億円を実施



2-3. 2012年度の研究開発費

FY2011 Result & FY2012 Forecast

・2012年度は、前年比更に7.4%増の930億円のR&Dを実施予定。





2-4. 2012年度 営業利益予想

FY2011 Result & FY2012 Forecast

・厳しい経営環境が続くが、全セグメントで増益を見込む。

(億円)	2011年度		2012年度				年間増減			
	年間実績①		上期予想		下期予想		年間予想②		②-①	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
自動車	9,917	543	5,200	280	5,600	330	10,800	610	+883	+67
情報通信	1,620	△59	750	△60	1,150	70	1,900	10	+280	+69
エレクトロニクス	1,858	33	1,050	30	1,350	60	2,400	90	+542	+57
電線・機材・エネルギー	5,086	169	2,250	50	2,550	120	4,800	170	△286	+1
産業素材他	2,779	185	1,450	100	1,650	130	3,100	230	+321	+45
消 去	△667	△2	△700	0	△300	△10	△1,000	△10	△333	△8
合 計	20,593	869	10,000	400	12,000	700	22,000	1,100	+1407	+231

2-5. 2012年度 連結業績予想

FY2011 Result & FY2012 Forecast

・業績予想の前提

為替
銅価

80円/\$
70万円/t
建値

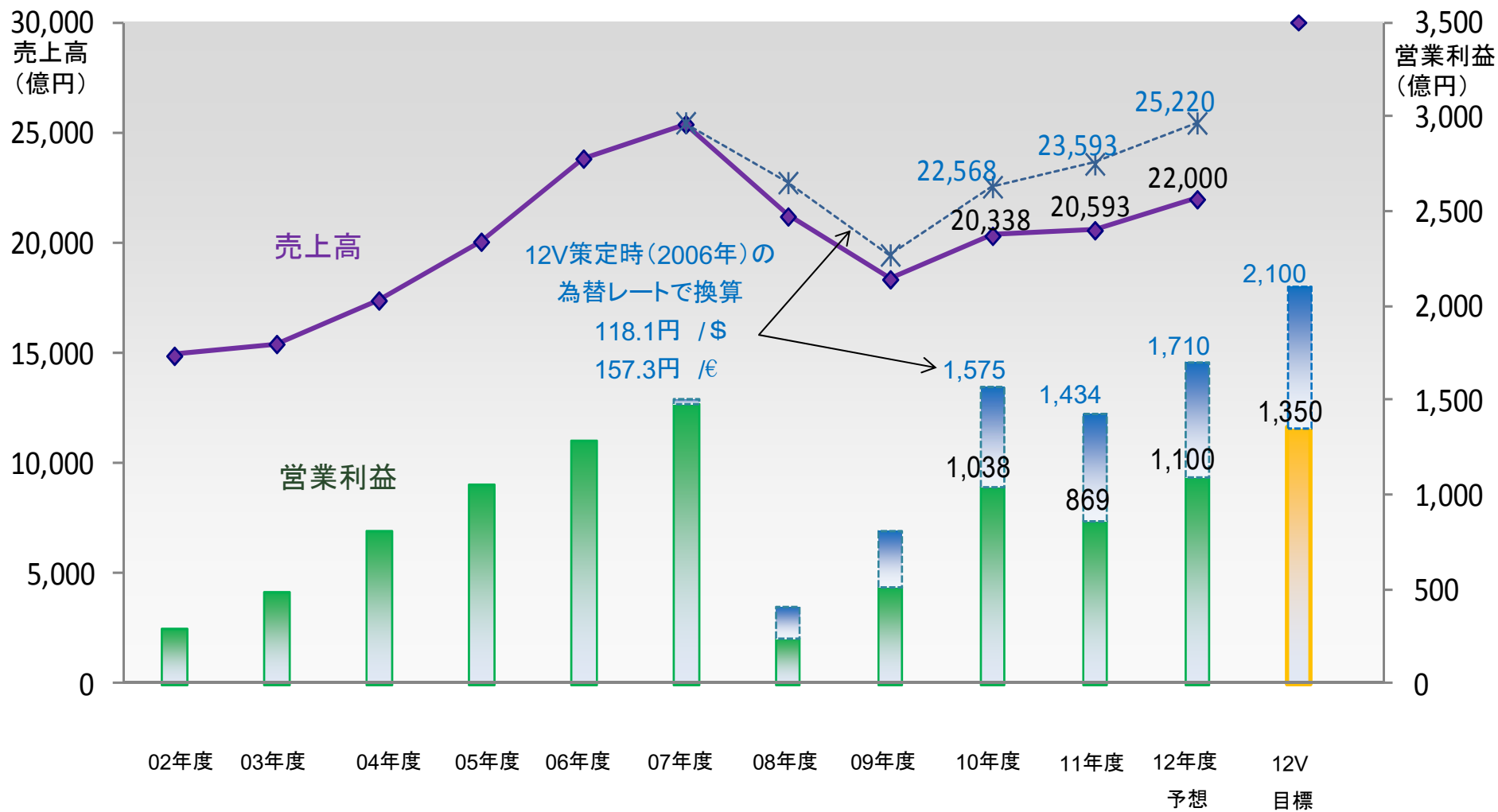
105円/€
LME 8000\$/t

	2011年度 実績	2012年度			前年比 増減率
		上期予想 ①	下期予想 ②	年間予想 ①+②	
売上高 (単位：億円)	20,593	10,000	12,000	22,000	+7%
営業利益	869	400	700	1,100	+27%
持分法損益	205	90	110	200	
経常利益	1,067	500	800	1,300	+22%
特別損益	△67	△30	△80	△110	
税前当期純利益	1,000	470	720	1,190	+19%
税・少数株主利益等	△411	△190	△300	△490	
当期純利益	589	280	420	700	+19%

2-6. 12Visionの売上高・営業利益目標

FY2011 Result & FY2012 Forecast

- ・2012年度の営業利益(1,100億円)を 12Vision策定時の為替レートで換算すると 約1700億円。
- ・12Visionの営業利益目標 2,100億円を現在の為替で換算した 1,350億円を実質的な目標として、今後、更なる対策を積み上げる。



2-7. セグメント別売上高・営業利益

FY2011 Result & FY2012 Forecast

・現在の為替で換算した12Visionの営業利益目標に対して、自動車・電機エネルギー・産業素材は目標をクリアするが、情報通信・エレクトロニクスは大幅な未達の見通し。情通・エレについては、目標に向けて更なる対策を講ずる。

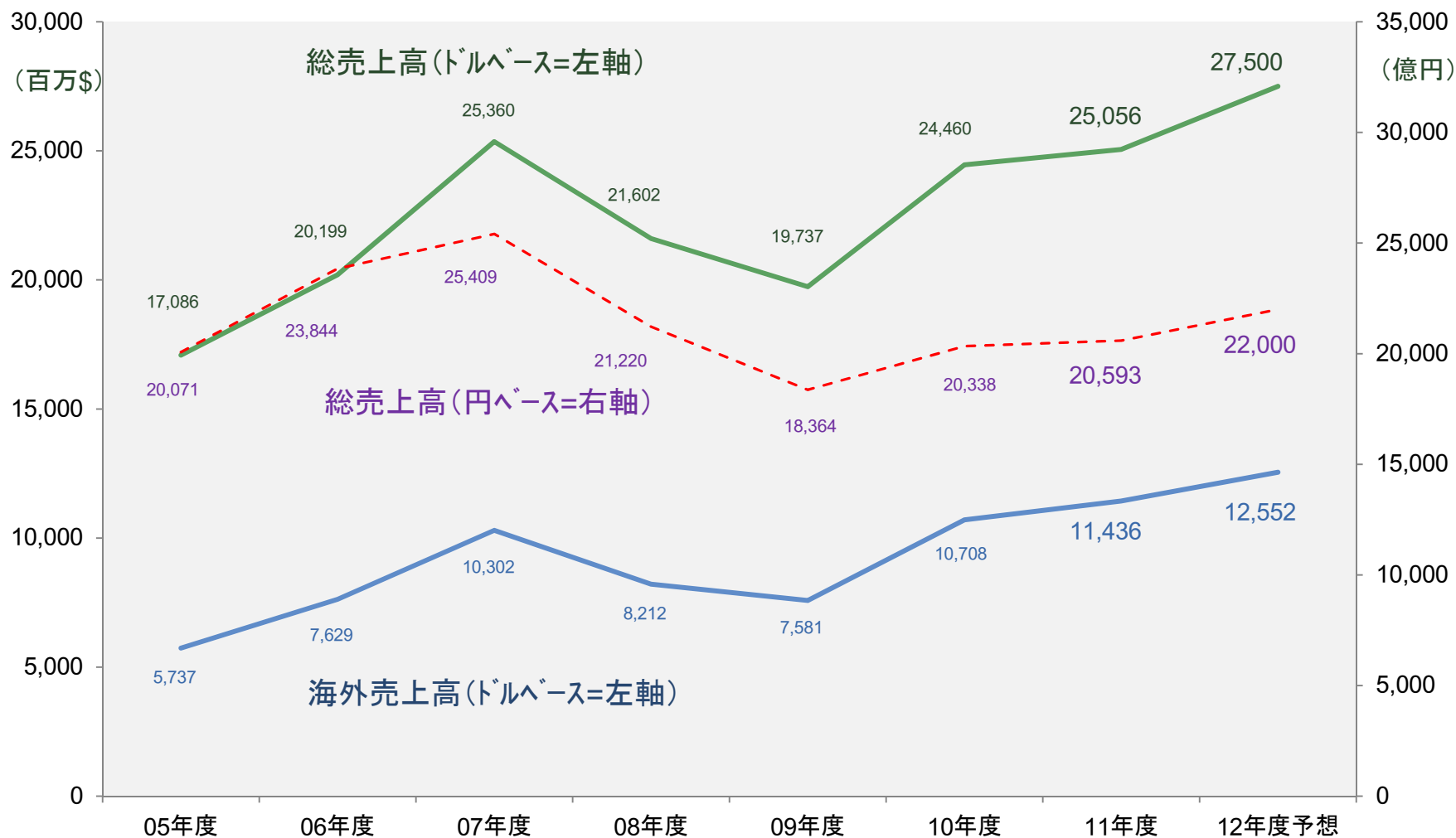
(億円)	2012年度						12V 営業利益	
	上期予想		下期予想		年間予想		参考 06為替	現為替
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益		
自動車	5,200	280	5,600	330	10,800	610	(700)	520
情報通信	750	△60	1,150	70	1,900	10	(400)	240
エレクトロニクス	1,050	30	1,350	60	2,400	90	(450)	260
電線・機材・エネルギー	2,250	50	2,550	120	4,800	170	(150)	110
産業素材他	1,450	100	1,650	130	3,100	230	(400)	220
消 去	△700	0	△300	△10	△1,000	△10	(-)	-
合 計	10,000	400	12,000	700	22,000	1,100	(2,100)	1,350



2-8. ドルベース売上高の推移

FY2011 Result & FY2012 Forecast

- ・円高の進行により、円ベースで見た総売上高の成長は鈍いが、海外売上高(ドルベース)は、既にリーマン前の水準を超え、2011年度は過去最高を更新。
- ・総売上高も、ドルベースでは2007年レベルまで戻しており、2012年度は更に10%の増収を見込む。



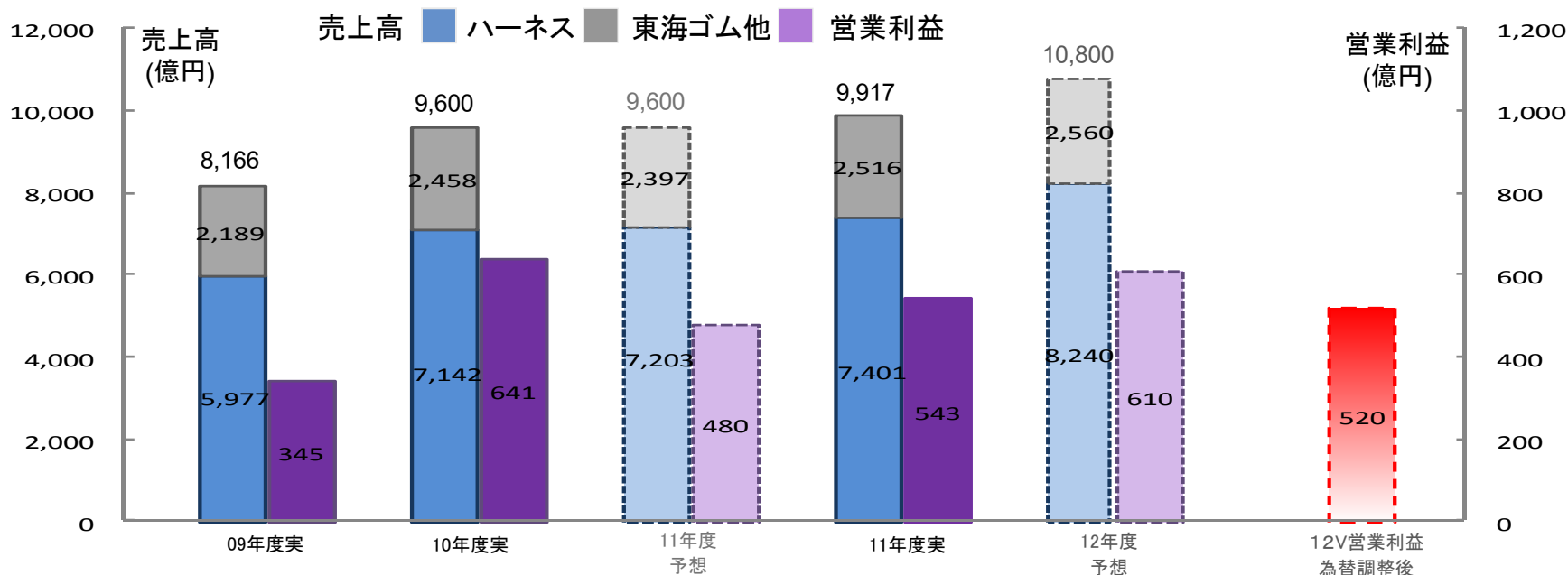


3. 各セグメントの取組み



3-1. 自動車関連事業

FY2011 Result & FY2012 Forecast



2011年度 実績

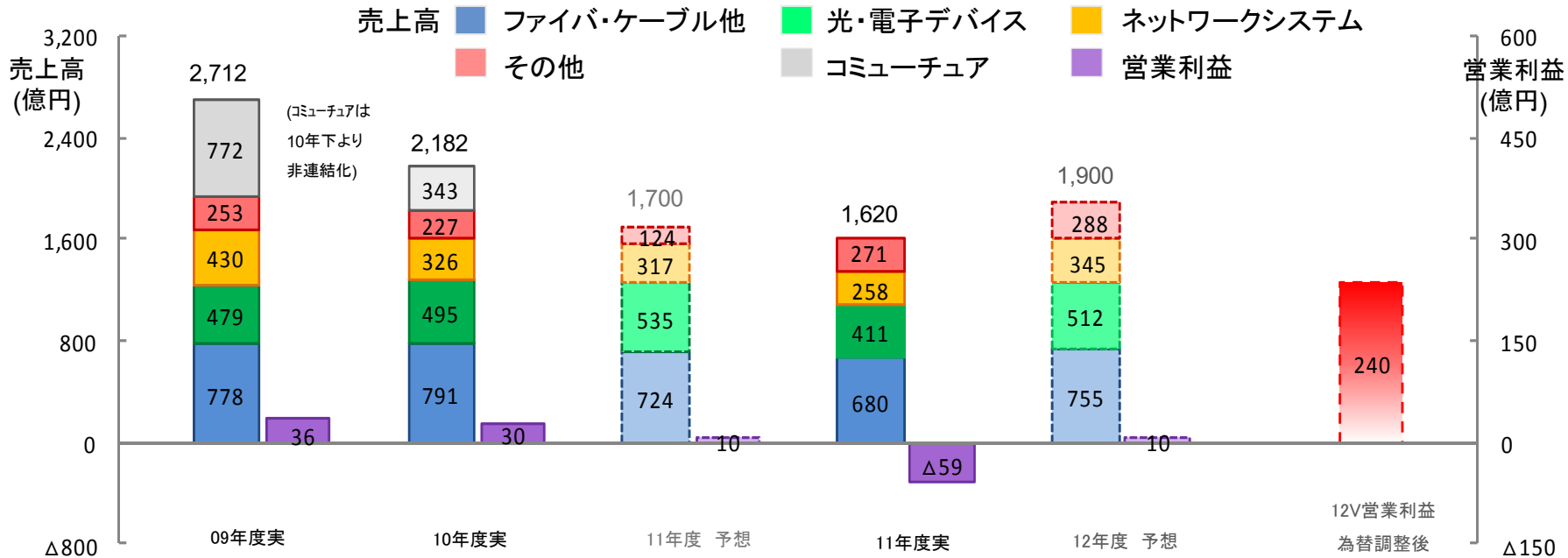
- ワイヤハーネスのグローバルシェアアップにより、前年比317億円(3.3%)の増収。営業利益は、震災後の操業減の影響により前年比98億円の減益。
- 12Vision目標の世界シェア25%を10年度に達成。11年度のシェアは26%と前年比1ポイント上昇。
- アジア、メキシコ、アフリカ等の製造拠点を増強。

2012年度 課題

- 海外カーメーカー向けビジネスの更なる拡大。
Ford, Chrysler, PSA他の営業体制強化。
- 徹底的なコスト低減活動の推進。
生産性向上(自動化など)、グローバル最適生産体制の再構築(メキシコ、東南アジア(カンボジア、ベトナム、インドネシアなど)増強)。
部品・材料の現地調達化の加速。
- 市場ニーズに即した新製品開発。
環境対応車向け製品(高圧・アルミ/光ハーネス)の開発・拡販。
リアクトル、電池関連など「総合部品メーカー」に向けた製品開発。

3-2. 情報通信・システム関連事業

FY2011 Result & FY2012 Forecast



2011年度 実績

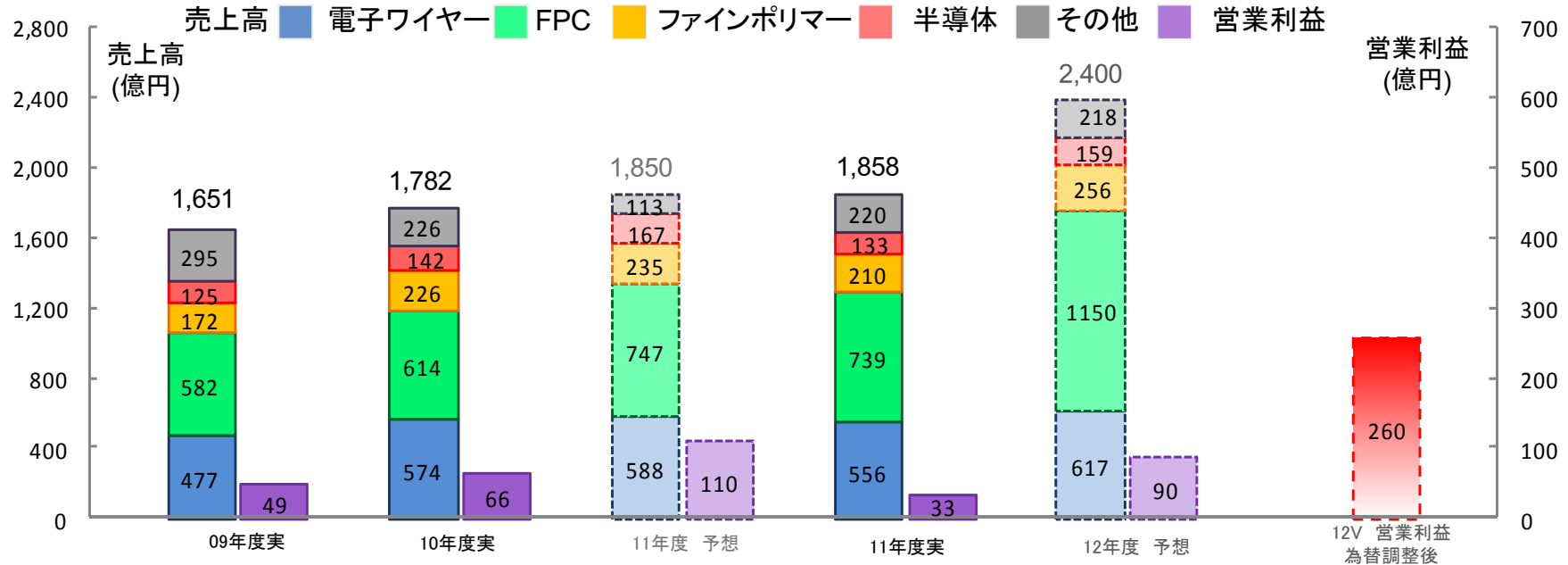
- 震災に伴う上期の生産減、円高による輸出採算悪化などにより、前年比25.7%の減収。営業損益は89億円悪化し、59億円の損失。
- 光関連の中国製造拠点増強、インドに販売拠点設立
- 震災復旧後の下期は、過去最高の出荷ファイバ長達成。

2012年度 課題

- 光ファイバ・ケーブルの総原価低減と国内外拡販
- 光・電子デバイスの新製品開発・拡販
 - ・40/100Gbps 光伝送用デバイスの拡販・シェア確保
 - ・米エムコア社から買収した化合物半導体デバイス事業による、製品ラインナップ強化、拡販
 - ・低コスト基地局用GaN製品の投入・量産化
- ネットワークシステム: 海外新規案件の受注確保

3-3. エレクトロニクス関連事業

FY2011 Result & FY2012 Forecast



2011年度 実績

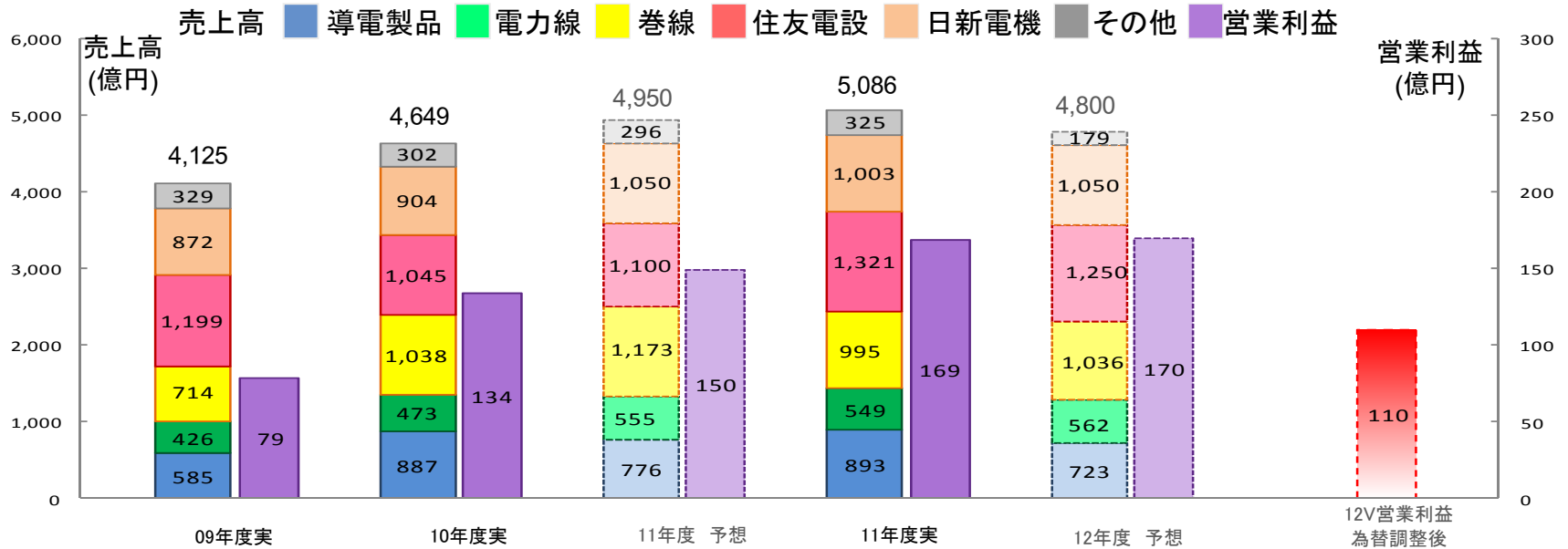
- スマートフォン等の新規案件増によりFPCの需要が増加し、前年比4.3.%の増収。営業利益は、上期の操業減や円高の影響により、前年比33億円減益の33億円。
- FPC: 新アプリケーション(モバイルゲーム機、スマートフォン他)の立上りによりシェア向上。
- 電子W: 高速IF (Thunderbolt対応) 製品を開発・量産体制確立

2012年度 課題

- FPC: スマートフォン、タブレットPC、ゲーム機など、新しいアプリケーション向けの生産対応と、拡販・シェアアップ
- 電子W: 自動車向け拡販、Thunderboltの円滑立上・拡販
- 中国拠点を中心としたFPC・電子Wのコスト低減推進
- ファインポリマー: 自動車向け需要捕捉、水処理モジュール拡販
- 半導体: 白色LED用GaN基板、無線通信用GaAs基板拡販

3-4. 電線・機材・エネルギー関連事業

FY2011 Result & FY2012 Forecast



2011年度 実績

- 住友電設の海外電気工事、日新電機のビーム・真空応用装置の需要増により、前年比9.4%の増収。営業利益も、前年比35億円の増益。
- アルミセルメットを開発

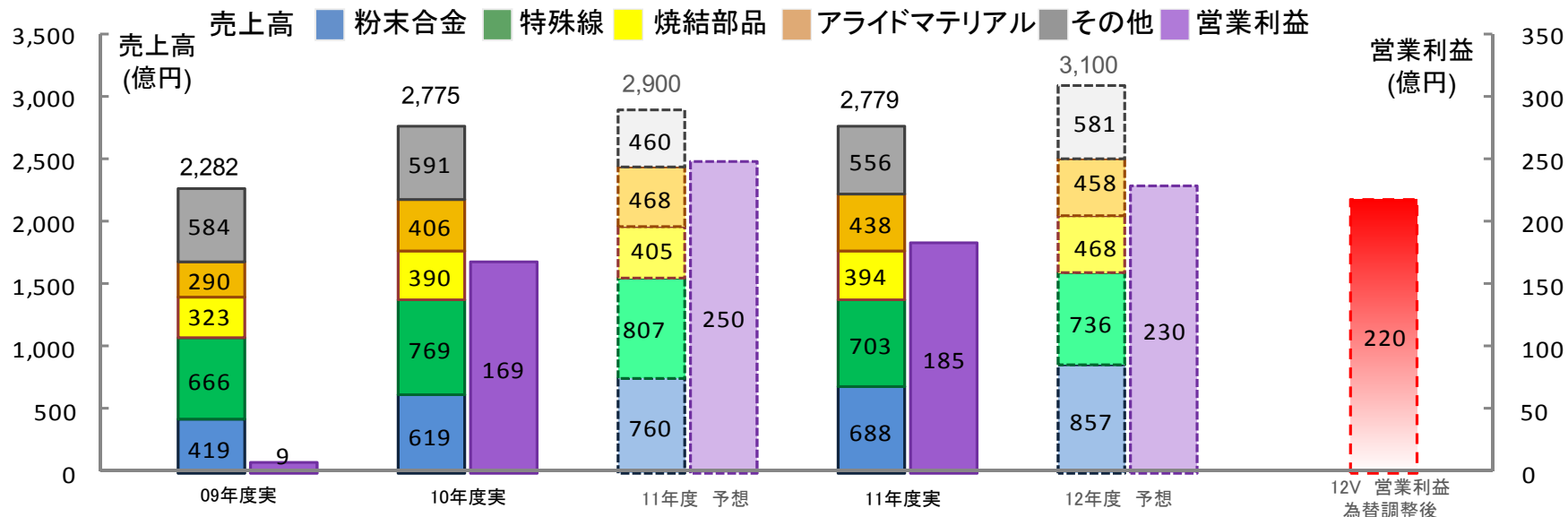
2012年度 課題

- 導電、巻線のアジア市場への拡販
- 巻線、セルメットなど電装品の受注確保と生産強化
- JPS:アジア・中東の電力インフラ需要捕捉と高圧ケーブルのグローバル展開(インド、サウジの製造拠点稼働)
- 住友電設:海外事業の拡大・強化、環境事業への積極展開
- 再生可能エネルギー関連製品の開発・拡販



3-5. 産業素材関連事業

FY2011 Result & FY2012 Forecast



2011年度 実績

- 粉末合金の売上増により、前年並みの売上確保。営業利益は前年比16億円増益の185億円。
- 年初予想対比では、太陽電池製造用のソーワイヤー等が計画未達。
- 韓国・暁星とスチールコート合弁事業開始(南京,タイ)
- 中国常州市に粉末合金の量産拠点を稼働

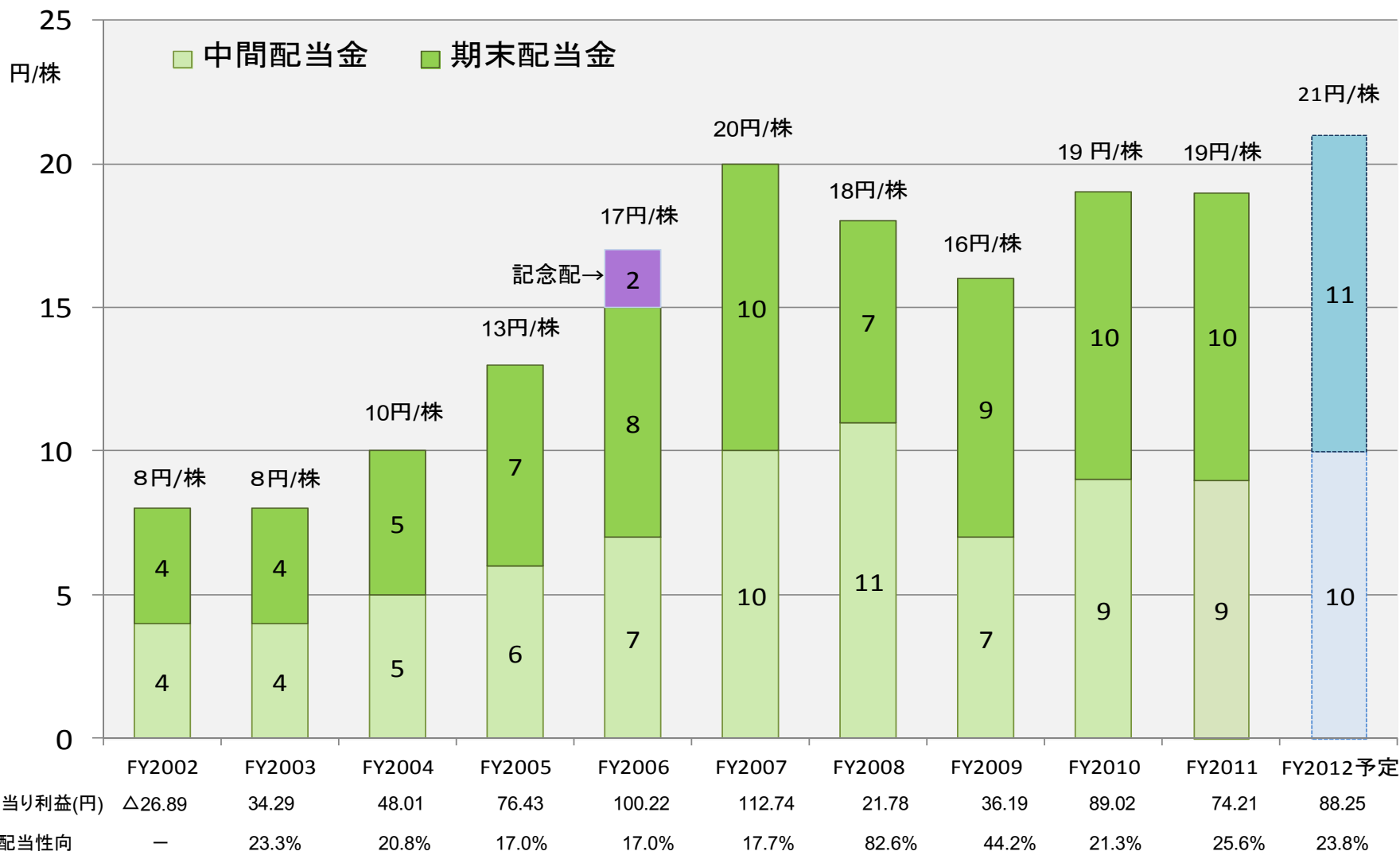
2012年度 課題

- 粉末合金の新興国(ブラジル・インドネシア・トルコ等)販売拠点拡充
- 粉末合金、焼結部品のインドネシア製造拠点設立
- グローバル自動車需要の増加に対応した、バネ線、焼結部品など自動車部品の受注確保と生産強化
- ヒートシンクの用途拡大・拡販(車載用、携帯基地局用に加え、電力制御用、LED基板用、医療用など)



4. 配当について

・2012年度は、年間で2円/株増配、21円/株の配当を予定。





この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・ 米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・ 米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・ 急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・ 財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・ 諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・ 当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。